

地域の声に耳を傾け、 次の100周年を目指して 「お客さまの満足の最大化」 を図ってまいります。

株式会社 仙台三越
代表取締役社長 兼 店長
仙台商工会議所3号議員
わたなべ のりかず
渡辺 憲一 氏

プロフィール

昭和33年4月10日生まれ。
昭和57年慶應義塾大学法学部を卒業後、(株)三越入社。横浜店及び仙台店の営業推進部ゼネラルマネージャーを経て、平成19年百貨店事業本部店舗開発推進部大阪新店準備室室長、(株)JR西日本伊勢丹出向等を経て、平成24年営業本部三越お得意様営業部長に就任。25年4月より現職。



地域の皆さまに支えられ 迎えられた創業80周年

— 創業80周年を迎えられたご感想をお聞かせください。

1933年4月に三越仙台店としてオープン以来、私たちには、まさに仙台の歴史と共に歩ませていただいたという実感があります。1987年に仙台市地下鉄が開業し、それに歩調を合わせて三越も全館リニューアルを実施。さらに2008年には定禅寺通り館をオープンするなど、着実に歩みを進めてまいりました。そして2011年3月に発生した東日本大震災。私たちは百貨店の役目を果たそうと、缶詰やレトルト食品を中心に、地震発生直後から食品や生活用品の販売を始めました。営業を再開した時、多くの皆さまから感謝の言葉をいただき、地域とのつながりを強く感じました。今年4月1日、創業80周年を迎えることができたのも、地域の皆さまの支えがあったからこそと感謝しております。

百貨店が提案する 新しいライフスタイル

— この秋に完了した地階の大規模改装の目的を教えてください。

私たちは4年前まで三越の支店とい

う立場でしたが、現在は(株)仙台三越という仙台の企業になり、その時から、全社員の胸には「地元企業として、より一層地域の皆さまに愛される存在にならなければならぬ」という思いが強くなりました。震災時、早々に店を開けることで、仙台の皆さまには多少なりとも百貨店を身近に感じていただけたのではないかと自負しております。

— 売場の特徴を教えてください。

震災以降、大変な思いをされている方もまだまだいらっしゃいますが、食べることは心を癒すこと。まずは「食」を通じて皆さまに元気になっていただきたいという想いのもと、食品フロアの改装を第一に決めました。

仙台のお客さまは、新しいものがお好きであるという側面をとらえて、これまで仙台では買えなかった、東京で行列ができる人気店の商品を売り場に展開しました。また仙台は地場産品が豊富なこと、地元のお土産品が数多くあることが誇りですから、地場商品も数多く取り揃えたことが今回の大規模改装の特徴です。

さらに、生鮮や惣菜といった定番のコーナーに加え、「和のスタイル」「洋のスタイル」というように、お客さまの暮らしを提案する」という捉え方でゾーニングを行いました。一例を挙げますと、「洋のスタイル」ではこれまでのような単なるお酒というくり方ではなく、「ワインのある暮らし」とい



10月24日にリニューアルを完了した地下食品売り場。これまで使用していた陳列棚や冷蔵庫は、遊休機械無償マッチング支援プロジェクトに寄付され、被災事業所で役立てられた。

うテーマで、ワインはもちろんチーズやハードパンなどもワンストップで揃う陳列を行っています。

「お客さまの満足の最大化」が私たちの目指すところです。そのためにサービスの在り方を常に模索し、新しいライフスタイルを提案し続けることが百貨店としての使命であり、強みでもあるとらえています。今回の改装で、その強みが全面に打ち出せたのではないかと自負しております。

10月に3店舗目となる小型店舗を泉区にオープンされましたが、その目と特徴を教えてください。

お客様に近づき、日常のちょっとした

たシーンでもお役に立ちながらより多くのお客さまと接点を持ちたいというのが出店の目的です。東北全体で見ますと、百貨店は仙台地区を除いて数が少なくなっています。百貨店の空白エリアの方たちが感じている、「百貨店ならではの品揃えの中から生活を豊かにするアイテムを選択したい」という思いにお応えするために、条件が整えば2016年までには、宮城県に隣接した地域を中心に10カ所程度で小型店舗を展開しようと考えています。

特徴としては、「ちょっとした手土産を用意したい」とか、「百貨店で扱っているおしゃれな雑貨を手に入れたい」というニーズに応えるような、日々の生活に豊かさや潤いを添えられるような商品を揃えている点にあります。一個から買える食品、百貨店で期間限定で販売されているような食品や雑貨なども取り揃えていく予定です。

「点」から「面」へ 仙台の街を活性化

— 今後の抱負をお聞かせください。

私たちの大きな使命の一つに、「仙台の活性化」があります。それは、「点」で成し得るものではなく、仙台駅前と藤崎さん、そして私たちが連携することで、この3つを結んだ三角形の一角が「面」として機能することで、仙台の活性化の一翼を担えるのではないかと

と認識しています。また60周年を迎えられた一番町四丁目商店街さんとも連携を強化し、バックグラウンドに控える三越伊勢丹の力も借りながら、仙台の独自色を出していきます。

さらに三越ならではの物産展・美術催事などにも力を入れていきます。院展」の開催をはじめ、10月に行った「サザエさん展」は仙台を皮切りに、全国を巡回しています。また毎回ご好評をいただいている北海道展、京都展に代表される物産展でも新しいお取引先さまを呼び込むなどして、鮮度を維持しながら展開してまいります。もちろん仙台名物「初売り」でも、80周年を記念した特別な福袋を用意しますので、ぜひ足をお運びください。

【概要】

株式会社 仙台三越

開業：1933年4月1日

設立：2009年10月1日

代表者：代表取締役社長 兼 店長

渡辺 憲一

資本金：50百万円

従業員数：217人

所在地：仙台市青葉区一番町4-8-15

TEL.022(225)7111 (大代表)

ホームページ <http://sendai.mitsukoshi.co.jp>

街

やさしい気持で暮らせるように……。

たくさんの方が集まり、働き、笑い、泣き、そして暮らしてゆく空間、『街』…。そこで人々が明るく、健康に、そして何よりやさしい気持で暮らせるように、快適な都市環境をつくって行かなくては…。私たちはそう考えています。私たちは青葉環境保全です。

より良い環境をめざす
AOBA 青葉環境保全

本社／仙台市若林区蒲町19-1

電話(022)286-3161(代)